

商店街活動を始めてから3年ほど。地元の方々とコミュニケーションも徐々に取れ始めたのと、やはり商店街に自分たちも地盤をつくるため、何より商店街に多くの人を呼び込むた

そして地産地笑市出店へ

このときに集まったメンバーが軸となり、今日のSTEADY CREW（ステディー・クルー）があります。ど。何となく学生時代の部活的感觉です。画・立案、それに伴う資金集めな



きっかけ

毎週末、友人たちと好きなサッカーを終えて、晩御飯を食べているときでした。

「毎日、仕事して帰ってダラダラして寝て、また起きてすぐ仕事行って。何かイベントでもいいからさあ、こう俺たちがやってることを表現できるでつかい事しようや!!!」

この一言がすべての始まりでした。メンバー集め、イベント企



当然ながら産直市場1店だけで、商店街が著しく活性化することはありません。しかし、少しずつ人の流れというものができ始めています。最近では肱川町だけではなく、久万高原町や西条市などの農家とも交流し、商品の充実をお願いします。また、新鮮野菜を使用した惣菜店の出店も検討をしています。

の交流事業はもちろんのことと、15年計画で柳井町商店街を魅力あふれる、愛媛を象徴するような街にするための継続した活動を実施していくこと、決意を新たにしています。



松山市 柳井町商店街 再生プロジェクト



STEADY CREW
(ステディー・クルー)
代表 渡部 勝平

めに、メンバーや各関係者との話し合いの結果、産直市場を出店する運びになりました。店名は「地産地笑市」。地域の人々が参加し、みんなで笑い合おう」という思いを地産地消に込めて命名しました。松山市内中心部は、一時期に比べ、生鮮食品を取り扱う店が減少し、スーパーなどは大型郊外店となり、徒歩や自転車の人が多いこの商店街は、一昔のなりわいを取り戻すには恰好の場所でした。また、野菜や加工品などを出品して頂ける相手先として、大洲市肱川町の道の駅「清流の里ひじかわ」に所属する、農家グループの方々と提携することになり、平成19年12月8日に「地産地笑市」をオープンすることができました。

現在では、肱川町の農家の方々と毎月会合を開き、柳井町商店街活性化と、肱川町の農産物PRなど、互いがより良い方向へ進むようコミュニケーションをとっています。

興味本位で始まった我々の活動ですが、今後は大きく視野を広げ、県内市町のツアーや、最近よく聞かれる民泊、農業体験など、様々な形で互いの固定客を共有する仕組みを作り、互いの地域活性化を促進していくことが大きなテーマです。

更なる展開への道

肱川町の道の駅・駅長との談話の中で、「清流の里ひじかわへの客足が減っている。」との現状を伺った際に思い出したのが、柳井町商店街の婦人会のおばちゃんと言った言葉でした。

「いつも商店街で買い物するのも悪くないけど、直接、肱川町に行ってみたいわ。」町側に受け入れ態勢を整えてもらえれば、あとは松山から日帰りミニツアーを企画・実施すればよいのです。ツアーの中には地元温泉や地元料理、道の駅での買い物など組み込めば必然と人とお金が進みます。川町にファンが付きます。

農村地域との交流事業はもちろんのことと、15年計画で柳井町商店街を魅力あふれる、愛媛を象徴するよう街にするための継続した活動を実施していくこと、決意を新たにしています。